

工藤 正一（くどう・しょういち）

1、プロフィール

夭折の詩人。詩誌「信号灯」を編集発行。反骨の思想と孤高の精神が、異彩の表現を創造したが、時勢との確執をも生んだ。雑誌「改造」の懸賞詩に3編の詩が佳作に選ばれる。

<生没>

1907(明治40)年11月9日 ~ 1929(昭和4)年4月28日

<代表作>

詩集『ある北方的な風景』

<青森との関わり>

南津軽郡石川村(現、弘前市)出身。西津軽郡や北津軽郡下北郡の小学校に勤務。

2、作家解説

1907(明治40)年11月9日南津軽郡石川村大字石川105番戸に生まれる。石川小学校卒業の後、弘前市玉成高等小学校へ進み、1923(大正12)年念願の青森師範学校へ入学した。入学してからの読書量の多さは周囲の目を引くに十分だった。しかし、マルクスやオスカーワイルド、ニーチェへと行き着く傾向は、正一の反逆の気骨を養成したが、師範学校という環境から疎まれる思想をも形作った。

1927(昭和2)年3月卒業、西津軽郡鱒ヶ沢町西海小学校へ奉職。「東奥日報」「青森日報」に詩・評論を発表。昭和3年3月、青森五連隊に5か月入営。歩兵伍長。除隊後、北津軽郡沿川村沿川第一小学校勤務。今官一、三上斎太郎らと交友。12月、斎太郎らと詩誌「信号灯」を発行、正一は詩「エピローグ」「孤独な燈」を発表。昭和4年1月、「信号灯」第2号に「思想」「兵士」などを、3月の第3号に「月明」「風景」などを発表。

1月下旬、県当局から呼び出され、作品の思想的傾向や行動に対して注意を受ける。4月、下北郡正津川小学校へ転勤となる。20日、急性盲腸炎発病、青森市の県立病院に入院したが、腹膜炎を併発し28日同病院で死亡する。享年23歳の若さであった。

死の直前、雑誌「改造」の懸賞詩に「ある北方的な風景」「この思想」(前掲「思想」を改題)「兵士」3編が佳作として入選していたことを知った。その3編の詩は、同誌6月号に発表され、「改造」編集部は編集後記で哀悼の意を表している。

6月、「信号灯」は工藤正一追悼号を発行。1930(昭和5)年11月、友人らの手で遺稿詩集『ある北方的な風景』が刊行された。

3、資料紹介

○詩集『ある北方的な風景』

図書

1930(昭和5)年11月3日

190mm×133mm

工藤正一の遺稿詩集。没後1年後、工藤紫郎、三上斎太郎ら友人たちによって刊行された。「この思想」「ある北方的な風景」「馬車」「夜更けの詩」など、62編を収める。「内なる反逆の歯を嚙む生命の波動を、鋭い意志の燃焼もて刻みつけた」(工藤紫郎の解題)